

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものであるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム花の里
(ユニット名)	第二グループ
所在地 (県・市町村名)	長崎県諫早市福田町3316-3
記入者名 (管理者)	石丸 智英
記入日	平成 20 年 8 月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

( ■ 部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	今までの定着した理念の中に、地域密着型としての目標を取り入れた事業所独自の理念を作り上げている。	○	希望、目標に向かった生活が行なわれる様、取り組んでいきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎朝、朝礼時、運営理念の唱和により意識を高め、日々の行動に取り組む様になっている。	○	掲げている理念を自覚し、より良い生活の提供を行ないたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	理念を掲げた「グループホーム便り」を毎月、発行し、機会があるたびに繰り返し伝えている。	○	理念は、玄関、ホームに掲げており地域の方、面会者等、来客の皆様には事業所の思いを伝えたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	地域の行事へ参加したり、施設が実施する行事の案内を行なっている。	○	行事以外でも日常的に遊びに来ていただける場所にしていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の行事を把握し、参加する様になっている。活動出来る場所へ進んで参加している。	○	地域行事の参加による交流を生かし、いつでも気軽にきていただける場所になりたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	中学生の体験学習やボランティア、学生、実習生の受け入れを随時、行なっている。園児をまねき、交流を行なっている。	○ 近隣には、地元の方がおられ、散歩を兼ねて出向き、高齢者の方の話相手等、関わりをもてる様に取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義、ねらいを分かりやすく説明し、全職員で自己評価を行い、結果を全体ミーティングで報告し、改善部分を取り上げ、実践につなげている。	○ 職員の意識を高め、意見を交換し、分かりやすいものをご家族にも理解していただける様、取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員、家族、利用者、事業所の責任者、計画責任者、看護師による会議を開催した評価に関する資料の添付はもちろんの事、家族アンケートに基づいた回答も行い家庭的な雰囲気の中で、話し合い1人1人より、意見が出され今後、1つ1つ積み上げていきたい。	○ 数多くの方の参加による意見を反映させる為に、参加していただける様、働きかけたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との接触の機会は、毎々あり、その毎に情報交換を行い活用してもらっている。	○ 定期的な会議の中で、意見交換を行い、良い物は、良い物として取り入れ、指導、伝達が行なわれている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修の機会あるいは、報告により職員の理解を深める様、努めているが未だ浸透していない。対応が必要と思われる利用者がある場合は、その毎、説明、助言を行いながら支援している。	○ 随時、必要に応じて、社会福祉協議会と連携していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体としての「人間の尊厳」としての共通認識の下に、研修や研修報告等による事例研究等を行い、マニュアル作成の防止に努めている。	○ 言動、身体虐待ゼロを目指しており、安全、安心のある生活の維持に取り組む継続したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時に、十分な説明を行い、家族には、納得を得ている。	○	見学に来られた際、ホームの事を分かっていたり分りに分りやすく説明を行っていききたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の声を傾聴し、又、聞いた職員は、他のメンバーに伝え、話し合っている。運営推進会議等で意見を聞き運営の参考をしている。	○	ホームでは、職員、利用者がゆったりとして会話が出来る場所が作られている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしぶり健康状態は、月1回のおたより又は、電話にて報告している。金銭管理、職員の異動等については、面会時に報告したりしている。	○	家族の面会時、新しい職員を紹介している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、プランの説明時等、折に触れて、利用者に対する要望がないか尋ねている。	○	家族の方が今より更に、ゆったりとして会話が出来る様にしていききたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回の全体ミーティング、月1回の職員会議等で意見を出し、運営者、管理者等と話す機会がある。	○	関係者の意見の中から、よりよい物を取り上げ、サービスにつなげている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	皆が協力しあい必要時は、勤務変更等により、対応している。	○	利用者の状況に合わせて人員配置を行っていききたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員がやむおえず異動、離職をする際は、利用者にはしっかりと説明を行っている。又、新しい職員が入った際、利用者には紹介している。	○	馴染みの職員が欠けても安心して生活していただける様に環境を整えていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	研修の機会を増やし、全体として質の向上に努めたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	定期的に行われる研修会へ出席する事で、よいものを取り入れる様にしている。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	慰安旅行や新年会を行い。職員のストレス発散の場を作っている。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	○	職員1人ひとりの特性を活かして、質の向上に努めたい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	○	表情等を汲み取り、職員より声かけを行う様にしている。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	○	解決方法を提案し、家族にとって対応しやすい事を選ぶ様にしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族のニーズを把握し、現状を確認し、地域包括支援 センター及び居宅介護支援事業所のサービスにつなげている。	○	他との連携を強め、よりよいサービスの向上を目指 したい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	家事手伝い等、他利用者と共に、行ってもらい徐々に行事等への参加 をしてもらい、安心したゆとりのある生活へつなげている。	○	利用者の趣味、得意な事を把握し、環境作りと時間 を作り楽しみのある生活をしてもらっている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	あくまでも本人の意思、権利を優先したサービスにより、支えあう関係を 築いている。	○	忙しい時、特に共に行う時間が欠けがちであるが、 常にゆとりのある場面作りをしたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	面会時、電話連絡の際に日々の生活の内容、それについてのケアの 方法を説明し納得していただいている。	○	家族のニーズに対し、最適のケア方法について説 明をしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	誕生日、買い物等、家族との接点が多くもてる様にし、行事参加への 呼び掛けを行っている。	○	普段、面会に来られない家族等にも、積極的に参 加してもらう様に声かけしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	本人の一番思い出深い場所を写真に収め昔話、里話等を行い温かみ ある関係の維持、継続に努めている。	○	併設のケアハウスは、利用者のほとんどの方の馴染 みの場所、人であり身近な方との面会に努めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	1人1人に心配り、気配りを行いお互いに分かり合える共有できる場 所、会話の手伝いを行い信頼関係を築いている。	○	1人1人の個性を活かしつつ感情をコントロール出 来る様、職員がクッションとなっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	暑中お見舞い、年賀状、行事のお知らせ等により継続的な関係作りを行っている。	○	今後も関係を大切にし、面会時に来ていただける様にしていきたい。
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段、生活する中、口数が少ない方、意志を表さない方は、表情、言葉の中で確認したり、家族、親類の方より情報を得ている。	○	様々な情報の中で、本人が心穏やかに過ごせる様にしていきたい。又、声かけ、本人の話を聴き、反応を見て会話につなげる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族より情報を収集し、普段の生活を豊かにする取り組みを行っている。	○	昔と今では、暮らし方等が、変わっている場合があるので、本人の様子を見て対応していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1人1人に合わせた時間の過ごし方、心身状態の変化等、日勤、夜勤の申し送りを密にし、利用者の現状を把握している。	○	会議等でも検討し、変化に対応したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時、利用時にセンター方式のシートに分かる範囲で記入をお願いし、日々の関わりの中で思いや意見を聞き介護計画に反映させている。	○	会議時、全スタッフで介護計画について意見を述べたり日頃気づいた時に意見を交換して検討している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは、月1回の全体ミーティングに図り、状態の変化に応じて随時、見直しを行っている。	○	利用者の体調の変化等、朝、夕の申し送りか日誌にて伝達し、よりよい介護が行える様にしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分摂取が普段よりも少ない方がいたら水分チェックをつけたり、日々の様子を小まめに記録し、職員間で情報を共有している。	○	表情、発した言葉等を聞き逃がさず、利用者が穏やかな生活を送れる様に更なる向上に努めたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の事業所がある事により柔軟に対応している。医療連携体制をとり、入居者1人1人を主体に入院の回避、早期退院の支援等を行っている。	○	更なる向上に努めたい。
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の開催、必要に応じて理事長、管理者が協力体制をとり、地域で暮らし続けられる様にしている。	○	地域資源を活かし、利用者が生き生きと活動が出来る様に支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーとも交流があり、他のサービスを利用する為の支援も出来る状態である。	○	他のケアマネジャーとも連絡、相談出来る様に関係を継続していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	多目的にサービス事業所が併設している関係もあり、常に地域包括支援センターとは、連携がとれている。	○	利用者のみならず、地域の方々にも関わってきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は、家族の同意の下、職員が対応して支援しており、主治医による往診も行ってもらっている。	○	初診の時など家族が付き添い、医師の診断と一緒に聞かれ病状を把握してもらっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医あるいは、総合病院がある。通院時に相談したり、電話でのやり取りを随時行い、支援している。	○	これからも関係を継続していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月2回の主治医による往診時、通院時、併設のサービス事業所の看護師に気軽に相談を行っている。	○	小さな異変も見逃さず医師、看護師に相談していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医に情報提供はもちろんの事、理事長自らお見舞いに出向き、日々の情報交換を行い早期退院に努め常に連携している。	○	主治医との連携を深め早期退院に努めたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制で書類をとりかわす際に家族の意向を確認し、その度、かかりつけ医とも話し合い全員で方針を共有している。	○	利用者の状態に合わせて、早期に対応していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向を第一に日々の状態を報告、主治医、医療連携看護師、職員が連携をとり、チームとして終末期の支援に取り組み又、「出来る事、出来ない事」に関しても連携の中で真剣に取り組み、家族の理解を求め、納得頂いている。	○	終末期の経験から次のステップに向け、チームで話し合い連携を深めケアを行っていただきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供を十分に行う事で最小限に食い止め、ダメージを防ぐ事に努めている。	○	ダメージを防ぐ様、本人、家族と真剣に向き合っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職場で働く際やミーティング等で報告しあい徹底させている。	○ 職員同士の連携をもっと深めていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	自分の想いを発言出来ない方にも、何気ないしぐさや表情等を、汲み取り、本人に合わせた説明で分かりやすく伝える様に、又、本人の意志を尊重し、支援している。	○ 普段見せる何気ない態度やしぐさも見逃す事なく、伝えたい事を感じとっていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの過ごし方を尊重し、朝寝坊したり、本が好きな方は、移動図書館を利用したり、パンを食べたい人は、併設の施設に来るパン屋さんを利用したりとさまざまである。	○ 1人ひとりの希望を受容し対応していきたい。
no			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行事などの際、普段の服装から少し違った服装、ドレスアップなどして、気分を変えてみたり、用意出来る範囲の化粧品等を使ってメイクアップ出来る様、取り組んでいる。	○ 普段とは違った格好や髪型などすると心身共にリフレッシュする事が出来、生活にハリが出てくるので、取り組んでいきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳やおかず等のつぎ分け、食時後の後片付け等、職員と利用者が一緒になって行い、有意義な時間を過ごしている。	○ その時の体調や気分等を考慮し、楽しく食事出来る様にしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を把握し、買い物等に出掛けた際には、好きな物を買ってもらう。	○ 望む物を望まれた時に日常的に楽しめる様、支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	生活の中でもデータをとり、時間誘導し、おむつの使用を減らしている。パットの使い方も、一人ひとりにあった物を使い配慮している。	○	利用者各自の排泄パターンにより声かけ、誘導を行なっている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴出来る様にしている。	○	利用者1人ひとりが楽しんで入浴していただける様に支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ソファー、畳の間、居室等、それぞれの状況に応じて安心してゆっくり休息、眠れる様に支援している。	○	生活のリズムが乱れない程度に休息の時間を提供していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、掃除、色塗り、書道、歌、おやつ作り等に利用者の経験、知恵を発揮する場面作りを行なっている。	○	茶碗拭き、お盆拭き、洗面台の掃除と1人ひとりに合った役割作りが出来ており、これからさらに役割作りと楽しみ事を充実させていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解の下、小銭を所持している人、又、家族より事業所が管理している人とそれぞれであるが外出、行事の際は、財布を準備し、自分で払っていただいている。	○	1人ひとりの希望を取り入れ日常的な外出の機会をもっと増やしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望にそってその都度、対応している。	○	日々の会話の中で、発語が少ない人からも、要望を引き出し戸外に出られる様に対応していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	事業所としての案はある。面会時等に協力依頼は行っている。	○	利用者の誕生日、家族と共に外出される時等に気持ちを代弁し、家族に伝えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プレゼントが届いた時等、希望により支援している。	○	手紙等、代筆している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問出来る。家庭的な雰囲気でき兼ねなく居室で時間の許す限り過ごしてもらっている。	○	1人ひとりの訪問ではあるが利用者、職員を含めて、全員でお迎えする雰囲気作りに努めたい。
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会に出席する事により、専門性を高め全体ミーティングで、具体的に事例を取り上げた勉強会を定期的に行い、その日のケアを振り返り、自覚し、再確認している。	○	朝、夕のミーティングでもケアについて各人、気づきを自由に出し合い高めていきたい。身体拘束の研修会にも全員、積極的に参加していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけない見守りを全職員で徹底し、自由に出入りされている。	○	夜間は、センサー等で、見守りで極力、拘束を避けている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	施設内全体の把握が出来る様、台所、談話室には、常に職員がいる環境をつくり職員同士で確認を徹底している。	○	常にお互いが所在確認し合う事により、さらに安全確保に努めていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況により、注意を促していく程度の物は、置いておくとか、ケースに応じた対応をしている。	○	利用者の能力を見極め、出来るだけ物を排除しない方向で対応していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故等、発生した場合、報告書を作る事により、意識を改め、話し合いにより再発防止に努めている。その度、連絡帳にも記録し、全職員で確認し合っている。	○	1人ひとりの利用者の状態を把握し、職員間の連携により事故防止に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て救急手当や蘇生術の研修を実施し、全ての職員が対応出来る様になっている。	○	併施設との連携を深め、事故発生の対応が出来る様にしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回、利用者と共に避難訓練を行っている。地域協力体制は出来ている。消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を定期的に行なっている。	○	今後も訓練を真剣に取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状況により家族に説明し、職員間において対応策をミーティング、申し送り時に話し合い、必要に応じ再度、家族に説明し、対応策に取り組んでいる。	○	その都度、家族、職員間で十分な話し合いを行い、対応策を考えていきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃の状況を職員は、把握しており、いつもと違うと感じたら(食欲、顔色等)バイタルチェックを行い記録している。状況により医療連携看護師に報告。医療につなげている。	○	体調の変化がある方に対しては、医師、医療連携看護師、管理者に相談し、早期対応につなげている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診、通院時、その毎、処方箋に目を通し薬の内容等、把握している。職員管理の下、確実に服薬出来る様、支援し、病状の変化も確認している。	○	利用者1人ひとりの名前を書いた箱に薬を朝、昼、夕、管理しており服薬の際は、職員間で声に出し合い確認し、誤薬防止に努めている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分チェック表、排便チェック表に毎日、随時、記録し、全職員が把握している。又、動きの面では、生活(家事)の面で、働きかけ、外出時にも働きかけを行なっている。	○	水分が足りない時は、その方に応じ甘い飲み物を作り水分摂取を勧めている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけ見守りによる歯磨きお茶でのうがいを促し確実に継続出来ている。	○	安易に支援せず能力を引き出した上で見守り声かけを行なっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。	○	食事の隔たりが無い様、1人ひとり、確認を行い、対応していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ワクチン接種を実施し、毎食前の(外出)手洗い、うがいを励行している。定期的及び随時、シーツ交換布団類の日光消毒も天気の良い日には、行なっている。	○	下痢、嘔吐物を扱う際は、徹底して手袋を使い感染予防に努めている。研修会に積極的に参加し、知識を深めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板と布巾等は、洗剤で洗い熱湯消毒し、天気の良い日は、日光消毒を行なっている。定期的にハイターにつけ殺菌している。冷蔵庫の整理も定期的に行い新鮮な食材管理に努めている。	○	冷蔵庫に入っている食品の賞味期限を常に確認し、安全な食材で調理している。調理用具の衛生管理も心がけていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、花壇があり、またアットホームな表札を掲げている。日当たりが良く部屋が明るい為、温かみがある作りになっている。	○	外部の方の意見を聞き玄関周りと施設内の空間の工夫をしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を利用者と共に生け空間にそれとなく飾り、米、茶碗を洗う音、おかずの炊ける匂い等、又、匂を先取りし、五感や季節感を取り入れる工夫をしている。	○	花屋さんで買った花ではなく自然の野草を玄関やトイレ、食堂に飾り季節感を取り入れている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったり座れる椅子、ベンチ、ソファー、畳があり日光がよくあたる時は、畳にてうたた寝をされたり、ソファーにて本を読まれたり、テレビを観たりと個人個人で自由に過ごされている。	○	これからも1人ひとりが思い思いにくつろげる環境作りを行なっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、鏡台、タンス、ソファ等を、持ち込まれ落ち着いて安心して過ごせる場となっている。	○	本人が愛用されていた娯楽用品、好きな物、本等を持参し、快適に過ごされる様にしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	早朝一番に換気を行い、衣類、エアコン等により温度調節をしている。オゾンが設置されており、脱臭、殺菌効果がある。	○	利用者の体調に合わせて、換気も適度に取り組んでいきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺等の設置は、完備されている。お風呂場には、シャワーチェア、滑り止めマットがある。	○	1人ひとりに合わせて環境を整え、対応していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「どうしたら本人の力が引き出されるか」「どうしたら分かりやすいか」を職員同士で話し合い前の段階で混乱や失敗を取り除き自立して暮らせる様に工夫している。	○	分かる力を引き出しより自立しやすい環境作りに取り組んでいる。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関、ベランダにプランターを置き、暖かい日には、一緒に水撒き、掃除を行ったり洗濯物を一緒に干したり散歩する事により肌で季節を感じてもらったりと楽しみと活動に活かされている。	○	避難通路外に花を増やし楽しんでもらっている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1人1人が、その人らしい個性的な生活を安全で、安心して送れる居場所作りに向け、日々、努力している。